

## 横浜版接続期カリキュラム実践事例集を刊行します

横浜市では、文部科学省が策定した「幼保小の架け橋プログラム※」を踏まえ、幼児期の教育から小学校教育へと子どもの育ちや学びをつなぐ「接続期カリキュラム」の実施を推進しています。今と未来を生きる子どもにとって大切な力や、その力を育むための工夫を、幼保小の職員はもとより、子どもに関わる大人がみんなで一緒に考え、語り合えるよう、市内の小学校、保育・幼児教育施設の取組を「実践事例集（第9集）」にまとめました。ぜひ、ご覧ください。



**POINT①** 幼保小の子ども達の資質・能力をつなぐ実践事例として、1歳児～小学校2学年までの計14事例を紹介！

遊びの中の「学び」を子どもの姿を中心に伝えています！



**POINT②** 保育・幼児教育施設と小学校の職員間で行った連携の実際も紹介しています。

<配付・購入について>

- (1) 市内の保育・幼児教育施設、市立小学校、市立義務教育学校、市立特別支援学校や、図書館等の関係機関に配付します。
- (2) 横浜市庁舎3階 市政刊行物・グッズ販売コーナーで3月1日より販売¥500-

**POINT③** 遊び、探究する子どもの姿や表情を、フルカラーでお届けしています！

※「幼保小の架け橋プログラム」(R4年度策定)は、文部科学省が「子供に関わる大人が立場を越えて連携し、架け橋期(義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間)にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子供に学びや生活の基盤を育むことを目指す」としたプログラム。

お問合せ先

こども青少年局保育・教育支援課幼保小連携担当課長 田村 憲一 Tel 045-671-3708